久万高原町の田舎風景は子どものころのにおいがした。柿の葉を拾ってかえり、柿の葉寿司を作りました。

けやき通信 2016.11月 NO281

— 錦織 佳代子 —

読書ノート

● 大黒屋光太夫 —帝政ロシア漂流の物語

山下恒夫著　岩波新書

目次のつぎに地図がある。ロシア、カムチャツカから千島列島、それらの一部のようないさな日本列島。読みながら何度もこの地図で地名と位置を確認した。天明2年(1782)伊勢の神昌丸は、32才の船頭光太夫以下17人で多くの荷を積んで江戸へ向かう。駿河湾で遭難、以後8ヵ月も漂流、孤島で4年間、飢えとともに命をつなぐ。ロシア人に救われ帝都ペテルブルグへの長い旅。再び鎖国の日本に帰ってきたのはただ2人。物語の事実に圧倒される。船頭光太夫が過酷な運命の中で大きく成長していくさま、仲間たちにも心打たれる。世界の中の小さな国日本の辿ってきた道、その道の「いま」に私たちはいる。

● 人形師天狗屋久吉　宇野千代著　文體社 5.22毎

図書館の地下から出してくれた。茶色に変色して活字も旧漢字、表紙もはずれている。それでも主人公久吉の語り口にひきこまれ一気に読んだ。老いた人形師のひとり語り。著者が持つ文楽人形の頭の写真三葉もあり、古い写真なから気迫、色香を感じさせる。この頭をノミで打ち上げたのか……。料理上手の千代さんの本や自らデザインした着物の本など思い出す。「おはん」も続いて読んだ。これは私好みでなかったが木村壮八の画がよかった。

尾道市立美術館は山の上にある。とてもん広がるロビーからの眺めは絶景！海、空、島々、寺や密集した家々、迷路のような坂の町を歩き、古い格式のあるお寺めぐりもしました。町の人と自然に話しかけできる町でした。

深いブルーのアジサイが長く咲いたあとモスグリーンのドライフラワーに変身。白いアルトの器にさした。

フィンランドから2年半ぶりの里帰り

熊野古道を歩いて温泉めぐりのあと10月28日深夜帰宅、1週間のうち2回友人宅に泊まって背は私の肩くらいに、このあと神戸の友人宅2泊とのこと。わかやの滞在はあっという間でした。

庭のケヤキが見事に色づいてわかやの黄土色の壁に溶けあい外国の風景画みたい。落葉はサラサラハラハラしずかな秋の午後

こうちゃんの好きな食べ物

ナットウ　ナットウ　3食ナットウ

フィンランドでは1コ500円くらい

タバコも大好き、カヤも！

タイヤキ、まんじゅう　おいしいねえ～

みかん　大好き

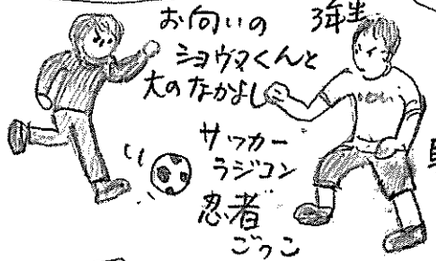
←2回リクエストあり

ギョウザ　いっしょに包む

フィンランド語日本語を上手に使いわける

ムシもっとほしいよ。

キャベツ　アオムシ　カマキリ　バッタ　ダンゴムシ　セミ抜けがら　ハチ死んでる　トンボ



11/5朝

駅まで見送り

こうちゃんは私とGORIさんに

ギュー!!

絵もユニーク、毎日おもしろいこといっぱい

タバコはうちに置いてた自転車を持ち帰える

梱包名人

和室入口でアタマをゴツン!!

身長194cm 30センチ

11/23 尾道市立美術館

神田日勝展

油絵・牛や馬、自画像、玉葱

力強いタッチ、リアル感に体がふるえる。

32才でなくなった

馬 絶筆・未完

11/13 今治市玉川近代美術館

魅惑の浮世絵コレクション

見たい見たいと願ってた日勝、北海道から来てくれた！農業のかたわら独学で描いた油絵。

あつこさんを誘って里山に溶けこんだ美術館へ。

広重、北斎、歌麿……明治時代も、美術館の庭で特製の紅茶とケーキ

今治の大島石

11/6 久万美術館 秋の久万高原町

「風景の向こう」 善多村知 松田正平

秋は美術館へ

私の好きな松田正平、周防灘、祝島など風景画のあたたかく美しい色彩。気品のある小さな美術館のこころよさ……「この美術館は蔵している名作とともにその存在自体がひとつのすぐれた作品である」池内紀